

【応募資格】市内に居住もしくは勤務する方、または本市出身者
 【募集作品】短歌・俳句・川柳・さつまいも狂句(短歌からさつまいも狂句までは5作品ずつ)、詩(一篇37行以内)、随筆(原稿用紙6枚以内)、文芸評論・小論・創作・小説・民俗・民芸(文芸評論から民芸までは原稿用紙20枚以内)
 【応募方法】直接、送付

【応募資格】市内に居住もしくは勤務する方、または本市出身者
 【募集作品】短歌・俳句・川柳・さつまいも狂句(短歌からさつまいも狂句までは5作品ずつ)、詩(一篇37行以内)、随筆(原稿用紙6枚以内)、文芸評論・小論・創作・小説・民俗・民芸(文芸評論から民芸までは原稿用紙20枚以内)
 【応募方法】直接、送付

【教育メディア研修】開催
 中央図書館にある視聴覚ライブラリー

中央図書館および各分館では、暮らしに役立つ新しい情報が満載のいろいろな雑誌を取り揃えています。最新号は館内で閲覧できます。バックナンバーは貸し出しもしています。

【お知らせ】
 6月23日(木)は図書整理日のため、17時から開館します。

【中央図書館】45タイトル
 【各分館】各4〜6タイトル

絵本
だいじょうぶ だいじょうぶ
 いとうひろし 作・絵 (講談社)
 小さなぼくが不安な気持ちになると、いつもおまじないの言葉で助けてくれたおじいちゃん。生きていくためのしなやかな強さを育む、心にしみる絵本

絵本
いつでも会える
 菊田まりこ 著 (学研)
 ぼくは犬のシロ。ある日突然、大好きなミキちゃんがいなくなった。悲しくて、悲しくて、目をつむると、そこには…。シロが悲しみを乗り越えるピュアな絵本

児童書
エルマーのぼうけん
 ルース・スタイル・ガネット 作 訳 わたなべしげお (福音館書店)
 9歳の男の子エルマーは、どうぶつ島で捕まっているかわいそうなりゅうの子を助けるため、冒険の旅に出かけます。エルマーの知恵と勇気が詰まった、わくわくドキドキの幼年童話

一般書
お友だちからお願いします
 三浦しをん 著 (大和書房)
 「お友だちからお願いします」と、言ったことも言われたこともない。友だちってというのは、気付いたらなっているものだ。著者が贈る、これまでとは一味違う「よそゆき仕様」のエッセイ集

今月のおすすめ本

行こうよ図書館へ

郷土文芸誌「文化薩摩川内」
第12号の原稿募集
 郷土の文芸・文化の向上を目的に、「文化薩摩川内」を発行します。市民の皆さんの応募をお願いします。
 【応募資格】市内に居住もしくは勤務する方、または本市出身者
 【募集作品】短歌・俳句・川柳・さつまいも狂句(短歌からさつまいも狂句までは5作品ずつ)、詩(一篇37行以内)、随筆(原稿用紙6枚以内)、文芸評論・小論・創作・小説・民俗・民芸(文芸評論から民芸までは原稿用紙20枚以内)
 【応募方法】直接、送付



バックナンバーは好評販売中 創刊号〜第11号 各500円

【応募・問合せ】〒895-0076 大小路町14-5 中央図書館 (22)3542
 *第12号は平成29年3月発刊予定

まちの話題
市内各地から
 五月雨にほんのり 頬染める小昼顔 (上甕町)
 平成28年5月18日撮影



藤の花に囲まれ 藤本を語ろうつ会
 藤本地区コミュニティ協議会では、平成21年度から「藤の園づくり」に取り組み、平成24年2月に藤の苗木を植栽しました。約3年間でたくさん開花するようになったこともあり、これまで藤本滝公園の整備に賛助いただいた方々に参加いただき、花見を兼ねた「藤本を語ろう会」を4月22日(金)に開催しました。青空の下、地区住民手作りの花見弁当を味わいながら、薄紫の藤を堪能しました。【写真・記事提供】=同地区コミュニティ協議会

市民の健康づくり 役立てます
 川内ヤクルト販売(株)から、「移動式モニター(電子黒板一式)」が4月19日(火)、市役所本庁において贈呈されました。これは、川内ヤクルト販売(株)の創立50周年を記念し、市民の健康づくりの意識向上に役立てるよう贈られたもので、すこやかふれあいプラザの健康教室などで活用されています。



菜種落とし
 昔ながらの農機具を使った「菜種落とし」が、5月8日(日)東郷町樋渡川多目的運動公園で行われました。これは斧刈地区コミュニティ協議会が世代間交流を目的として行っている活動「おのぶち塾」の一環です。高齢者の指導の下、子どもたちがざるなどで種をふるい分け、風を起こして葉などを吹き飛ばす「唐箕」という農具を使って選別し、48.9キロの菜種を収穫しました。【写真・記事提供】=同地区コミュニティ協議会

石蔵で楽しい時間を 満喫しました
 「八幡石蔵尺八の夕べ」が4月9日(土)、八幡地区コミュニティセンター敷地内にある石蔵において開催されました。来場者は尺八の音色に聞き入りながら、演奏に合わせて歌を口ずさみ、楽しい時間を過ごしていました。演奏会では、詩吟とクラシックギターの演奏も披露されました。この石蔵の舞台は、市のコミュニティマイスター制度を活用して設置したもので、今後の利用も広がると期待されます。【写真・記事提供】=同地区コミュニティ協議会

田の神さあのお引越
 田の神戻しが行われました。田の神戻しは、子孫繁栄、無病息災、五穀豊穡を祈って行われる伝統行事です。「田の神さあ」を集落内の家で1年間預かり、1年経つと次の家に引越しをさせる神事で、移動中、ヘグロ(すす)で顔を真っ黒に塗って田の神の分身に扮した青年たちが踊りを披露し、見物人にもヘグロを塗り付けます。ヘグロを付けられると、その年は健康に過ごせるといわれています。

「まちの話題」は、市民の皆さんから情報提供をいただき、身近な話題を掲載しています。ぜひ、投稿ください。